

1. 実況上の着目点

- ① 熱帯低気圧が東シナ海にあって、ゆっくり西北西進。熱帯低気圧に向かう下層暖湿気の影響で、南西諸島や西日本周辺では、雷を検知し激しい雨や非常に激しい雨を解析。
- ② 発達する熱帯低気圧が小笠原近海にあって、北北東進。小笠原諸島では、波が高くなっている。
- ③ 高気圧が日本海にあって、ゆっくり東南東へ移動。西日本と、東～北日本の日本海側を中心に広く晴れている。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の熱帯低気圧は、東シナ海を東進、14日は九州を通過し次第に不明瞭化する。一方、朝鮮半島付近に南下する500hPa5700m以下の寒冷渦に対応して、14日朝までに低気圧が対馬海峡付近に発生し、日本海西部を北上する。熱帯低気圧や低気圧に向かい流入する850hPa θ e345～354Kの下層暖湿気や上空寒気の影響で、大気の状態が非常に不安定になり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。東日本太平洋側では15日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。また、南西諸島と西日本では14日にかけて、東日本では15日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。また、気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなる所がある。西日本では14～15日は、強風や高波に注意。
- ② 1項②の熱帯低気圧は、24時間以内に台風に発達して13日は小笠原近海を北上し、14日は東～北日本の太平洋側を北上する。熱帯低気圧や台風に向かって下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨や非常に激しい雨が降り大雨となる所がある。また、気圧の傾きが大きくなり、強い風や局地的に非常に強い風が吹き、波が高く大しけとなる所がある。関東地方では14日は高波に、東北太平洋側では14～15日は暴風や高波に警戒。小笠原諸島では15日にかけて、東日本では14日は、北日本では14～15日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、強風や高波、落雷や突風に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 西～東日本では14日にかけて高気圧に緩やかに覆われて、晴れて気温が上昇し猛暑日となる所がある。熱中症など健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本とするが、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

- 4. 防災関連事項【量的予報等】**
- ① 雨量(06時から24時間)：九州南部150、九州北部120、小笠原・奄美100mm。
 - ② 波浪(明日まで)：東北7、関東6、伊豆諸島4、北海道・東海・近畿・奄美・沖縄3m。
 - ③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西～北日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「発達する熱帯低気圧に関する情報(総合情報)」を5時頃に発表予定。